

行政視察報告書

視察先： 伊佐市市役所
視察日： 令和5年9月22日
報告者： 自民新未来会 田口 憲雄
こども未来会 吉野 誠



目次

視察の目的

主要な質問への回答

制度について

総括



1. 視察の目的

伊佐市の「里道等整備についての支援事業」における具体的な進行状況、財源、課題、および地域との連携方法を理解する。

2. 事前の質問への回答

Q.里道等整備事業実施要綱制定の経緯について

A.里道、水路等の法定外公共物について、市民、地域自治会より多くの整備要望がある中、整備を進めていく上での基準がないことから、これらの要望に適切に対応し市民の方々の生活環境の改善向上を資するため要綱の制定を進めた。

Q.制度の運用状況

A.・制度制定以前は人家連担部、生活環境改善が図られる箇所等において実施

・制度制定後は2路線(里道整備:1路線・側溝整備1路線)

C=26,000千円(市単独予算)

Q.整備後の維持・管理体制

A.整備後の維持管理については、関係地域住民又は関係自治会

Q.その他事業における課題について

A.・整備要望が多いため、整備がなかなか進んでいかない。

・整備予算が市単独費となるため、予算措置に苦慮していることから財政当局とも有利な補助事業、起債事業の該当がないか模索している。

・用地については無償譲渡となっているため、事業化までに時間を要する。

3. 当日質問への回答

Q.財源と予算は

A.伊佐市は一般財源を使用している。予算は前年度今年度共に2000万円。主な材料費がコンクリート1立米あたり2万6000円、となっており伊佐市は特に高い。

Q.地域との連携は

A.整備の要望はむらづくりの方から地域の要望として上げてください。自治会から出してください。と、個人ではなく地域の要望として上げてもらうようにしている。

市との連携は自治会長などと相談や提案をして地域が納得するようなら整備を行う。整備を行うことで地域が割れてしまうような事にならないように注意している。とにかく要望は自治会から上げてもらうようにしている。

4. 総括

伊佐市は限られた財源（一般財源、予算は2000万円）の中で、地域の要望（特に5戸以上の集落）に対応しています。そのためには自治会を通じて要望を集め、連携を強化している。要望は多く、順番待ちとなっている状態。その中で優先順位をつけながら対応している。コンクリートの費用が1立米あたり2万6000円と高いため、資金調達と予算配分は大きな課題だ。

里道整備は国の予算が無いため独自予算で行わなくてはならず、予算確保が大きなネックとなっている。市と市で協力できるところを募って、実態などを伝え国として予算化に繋がればと思う。

5. 資料

添付資料

- ・伊佐市法定外公共物管理条例施行規則
- ・伊佐市法定外公共物管理条例
- ・伊佐市リ道整備事業実施要綱